ディプロマ・ポリシー

●音楽研究科 修士課程

音楽芸術表現専攻

声楽（オペラ）

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・オペラの試演会や声楽の実技試験などを通して、入学時に比べてより高度の歌唱技術、オペラ公演に必要な優れた表現能力が身についたことが確認されること
- ・オペラに関連した広範な知識と教養を得たことが、試験により確認されること
- ・音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

声楽（声楽研究）

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・声楽の実技試験を通して、入学時に比べてより高度の歌唱技術、優れた表現力が身についたことが確認できること
- ・声楽に関連した広範な知識と教養を得たことが、試験により確認できること
- ・音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

ピアノ

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・ピアノの実技試験を通して、入学時に比べてより高度の演奏能力を身につけ、ピアニスト、または室内楽奏者や伴奏者、および指導者として将来活躍できる可能性があることと認められること
- ・ピアノ演奏や指導についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること。また試験やコンサート等を通して、より高度な合奏能力や伴奏能力を獲得したことが確認できること
- ・音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

弦・管・打楽器

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。具体的には、

- ・専攻楽器の実技試験を通して、入学時に比べてより高度の演奏能力を身につけ、ソリスト、またはオーケストラや吹奏楽、室内楽奏者、および指導者として将来活躍できる可能性があることと認められること
- ・専攻楽器の演奏や指導についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること。また試験やコンサート等を通して、より高度な合奏能力を獲得したことが確認できること
- ・音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

電子オルガン

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・電子オルガンの実技試験を通して、入学時に比べてより高度の演奏能力を身につけ、ソリストまたはアンサンブルのプレイヤー、および指導者として将来活躍できる可能性があることと認められること
- ・電子オルガンの演奏や指導についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること。また試験やコンサート等を通して、より高度な合奏能力を獲得したことが確認できること
- ・音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

作曲

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・作品審査を通して、入学時に比べてより高度の作曲技術を身につけ、芸術音楽の作曲家として将来活躍できる可能性があることと認められること
- ・作品の創作や分析についての広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること
- ・音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

指揮

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・指揮に関する実技試験を通して、入学時に比べてより高度な能力を身につけ、すぐれた指揮者として将来活躍できる可能性があることと認められること
- ・指揮に関連する広範な知識や能力が身についたことが、試験により確認できること
- ・音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに修士論文もしくは修士研究を修めること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。

音楽芸術運営専攻

アートマネジメント

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・アートマネジメントに関する高度な専門知識が獲得されていることが、修士論文もしくは修士研究の内容、および口頭試問を通して確認されること
- ・幅広い国際的な識見と実践・研究能力等が確認され、「芸術文化の確かな担い手」となる実務家や研究者として社会に貢献すると期待できること
- ・音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること

その上で、学位審査に通ることが必要である。

音楽療法

研究計画で設定された各自の目標が達成されたことが確認されることが必要である。

具体的には、

- ・音楽療法に関する高度な専門的能力と研究能力が獲得されていることが、修士論文の内容および口頭試問、さらに専門科目の実習・試験等を通して確認されること
- ・音楽療法関連分野の高度な知識が獲得されていることが試験等を通して確認されること
- ・音楽および芸術全般に関して広範な知識と教養を得たことが、学科目等の試験を通して確認できること。さらに、音楽実技の向上が試験等によって確認されること

である。

その上で、学位審査に通ることが必要である。